

仰ぎ惟みれば三宝 咸く証知を賜りたまえ。

大日本国〇〇市に居住し 三宝を奉ずる信心の弟子

(祈禱者の名前) 謹んで丹誠を啓き 聖造に上る。

今乃ち妻室(妻の名)の為にす。(懐妊の時) 自去り以来

身 六甲を懐き 坐革未だ分ならず。切に慮れば 臨産の時

諸もろの横難多し。仰いで聖力を憑んで 以て平安を保

たんとす。謹んで誠心を発き 拜命せし合山の清衆に

よつて(経咒の名)を真読し 今満散に当たつて 同音に

大佛頂萬行首楞嚴神咒を諷誦す。集むる所の功德は

訶利帝母尊天 日本国伊勢太神宮 八幡大菩薩 賀茂下

上大明神 平野大明神 稻荷大明神 春日大明神 祇園

牛頭天王 北野天満大自在天神 當山鎮守金比羅山

大権現 熱田皇大神宮 熊野山頭大権現 秋葉山大権現

総じては日本国内の大小福德の一切の神祇 尽祈禱会上の

無辺の賢聖に祝献したてまつる。此の功勲に仗つて 普く

伸べて回向したてまつる。専ら以うらくは 女弟子

(妻の名) 身宮は安泰にして災障は侵さず 臨産の時

母子平安にして諸もろの難事無からんことを保祐せんこ

とを。伏して乞うらくは 三宝諸天 密に加被を垂れた

まわんことを。

十方云々